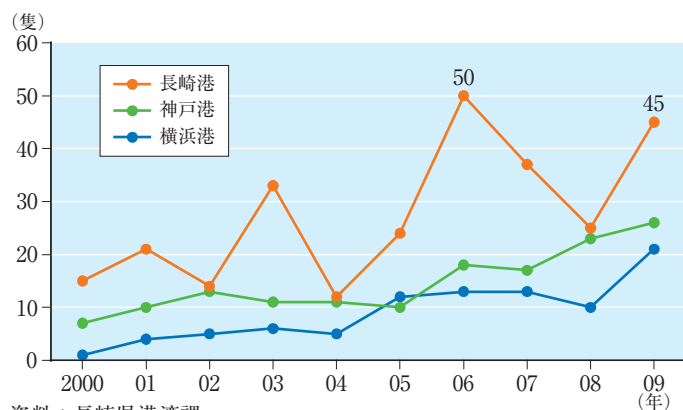


変わる海の玄関口 ～ 長崎港松が枝国際観光船埠頭 ～

長崎港は、1958年の国際観光船「カロニア号」入港以来、半世紀にわたり多くの外国籍クルーズ客船が寄港する日本有数の国際観光港であり、近年の外国籍クルーズ客船の寄港実績は日本一となっている。2009年も横浜や神戸を抑えて45隻を数えた（図表1）。この長崎港の玄関口である松が枝国際観光船埠頭にこのほど大水深の岸壁に続いて国際ターミナルビルが完成した。

図表1 主要観光港の外国籍クルーズ客船入港実績



日本最大級の埠頭

近年クルーズ需要が拡大するなか、クルーズ船の大型化が進み10万総トン級が主流となりつつある。そこで、長崎県では、松が枝国際観光船埠頭の拡張整備を進めてきた。まず、従来、5万総トン級対応の岸壁であったものを10万総トン級が接岸できるよう拡張して09年3月に供用開始し、日本初寄港となるクイーン・ヴィクトリアを迎えた。また10年2月にはこれまで日本に寄港した客船のなかでは最大のクイーン・メリー2が、女神大橋をくぐり無事に接岸したことから、クルーズ船寄港地として大いに面目を施したところである。



一新された国際ターミナル

また、従来の松が枝国際ターミナルは、プレハブの建物で案内看板等の老朽化も進み、乗客には不便なものとなっていた。そこで、08年度から長崎港松が枝国際ターミナルビルの整備にとりかかり、今年3月オープンした。

建物は周囲の景観と調和するよう、斜面状の屋上を緑化し、両端から登れるデザインになっている。内部は海側の窓が全面ガラス張りで港の風景を楽しめるほか、屋上から採光した明るい約1千㎡のホールや、クルーズ客に映像を使って本県の歴史や観光地などを紹介する歓待ギャラリーもあり、インフォメーション機能を高めた。



入出国手続きは日本最多の12ブースまで設置可能となっており、これまで最大5時間半もかかっていた手続きが約1時間に短縮される見込みである。また、客船が寄港していない場合はイベントスペースとして県民に開放される。

施設概要 構 造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

建築面積：2,371㎡ 延床面積：1,996㎡ 室内：最大高5.3m、長さ50.6m、幅17.3m

待合ホール：1,068㎡ 多目的ルーム：2室 歓待ギャラリー：96㎡

期待されるクルーズ拠点化

長崎県では、今後拡大が見込まれる東アジアクルーズにおける地理的優位性（上海から800km）や国際交流の歴史・文化・遺産など豊富な地域資源を生かしたクルーズの寄港地、さらには拠点化を打ち出している。今回の大型埠頭を備えた魅力的な国際ターミナルの完成は、その重要なインフラのひとつとして位置づけられる。10年も国際観光船の入港は39隻が予定されており、一層の発展が期待される。

*県港湾課によると、クルーズ客船が1日滞在した場合の経済効果は平均すると約2千万円／隻に及び、とくに最近増えている中国人観光客の消費額は4万円／人にもものぼるとされる